

平成 29 年 7 月 吉日

研究に関するホームページ上の情報公開文書

研究課題：

我が国の循環器血管撮影領域における医療被ばくの実態調査

研究責任者：

藤田保健衛生大学医学部 放射線医学教室 職名 教授 氏名 外山 宏

研究目的：

公益社団法人日本放射線技術学会平成 28. 29 年度学術調査研究班より、我が国の循環器血管撮影領域、心臓カテーテル検査・治療及びカテーテルアブレーション治療における医療被ばくの実態調査の依頼がありました。

現在、狭心症、心筋梗塞の診断を確実に正確に行う為に心臓カテーテル検査という検査があります。手足の動脈からカテーテルと呼ばれる細い管を心臓の血管の入り口まで送り込み、カテーテルの先端より造影剤を注入して、心臓を栄養している血管（冠状動脈）の細くなったり、詰まったりしている部分を写し出す方法です。またこの検査の結果次第で冠状動脈の細い血管を風船（バルーン）で拡張し、再び狭窄しないように金属の筒（ステント）を留置する治療を行ったりします。

また心拍の拍動に異常を来して脈拍数が多くなる頻脈性不整脈に対する治療としてカテーテルアブレーション治療という治療があります。カテーテルという細い管を血管から心臓に入れて、不整脈の原因となる電気回路を遮断する治療法です。薬物治療が不整脈の症状を抑えることを目的とした治療法であるのに対し、カテーテルアブレーションは不整脈の根治を目指す治療法です。外科的な手術と比べて、胸を切り開かなくても良いため、体への負担が少ないことも特徴です。

この心臓カテーテル検査・治療及びカテーテルアブレーション治療において、症状に応じて、治療時間が長くなり医療被ばく線量が増加する恐れがあります。他の施設では、被ばく線量の増加に伴い皮膚障害を起こした事例もあるそうです。そのため当院では、日常の循環器血管撮影領域における医療被ばく線量低減を行っております。

そこで今回、日本放射線技術学会平成 28. 29 年度学術調査研究班の実態調査がありました。当院からも透視時間、撮影回数、被ばく線量などの情報を提供し、日本における循環器血管撮影領域の医療被ばくを把握し、当院での更なる被ばく低減に努めたいと思い実態調査に協力しようと思いました。

研究方法：

日本放射線技術学会会員の所属する医療施設を無作為に抽出した 300 施設(当院が選出された)の医療被ばくの実態調査を行い収集分析します。調査内容である、各装置の基本情報、2017年3月～4月に当院で施行された心臓カテテル治療・診断及び不整脈アブレーションの患者様(10名程度)の身長、体重、及び臨床においてX線透視時間、撮影回数、被ばく線量などを学術調査研究班に提供します。以上の記録媒体に関しては、電子的配信で行います。

研究を実施する共同研究機関

公益社団法人日本放射線技術学会平成 28. 29 年度学術調査研究班代表者

医療法人あかね会 土谷総合病院 放射線室 石橋 徹

公益社団法人日本放射線技術学会平成 28. 29 年度学術調査研究班研究分担者

医療法人あかね会 土谷総合病院 放射線室 山下由香利

秋田県立脳血管研究センター 放射線科診療部 加藤 守

山梨大学医学部附属病院 放射線部 坂本 肇

藤田保健衛生大学 医療科学部 放射線学科 鈴木 昇一

浜松医科大学医学部附属病院 放射線部 竹井 泰孝

東北大学大学院 医学系研究科保健学専攻 千田 浩一

NTT 東日本関東病院 放射線部 塚本 篤子

兵庫医科大学病院 放射線技術部 松本 一真

徳島文理大学香川校保健福祉学部 診療放射線学科 水谷 宏

首都大学東京 健康福祉学部 加藤 洋

藤田保健衛生大学病院研究責任者

藤田保健衛生大学医学部 放射線医学教室 外山 宏

藤田保健衛生大学病院 放射線部 木野村 豊

藤田保健衛生大学病院 放射線部 井上 聡

*本研究の対象になられる方で、ご自身のデータの利用を除外してほしいと希望される方やこの研究に関することについては、他の患者さんの個人情報保護やこの研究の独創性確保に支障がない範囲で、資料を閲覧していただくことが可能です。希望される場合は、下記問い合わせ先までご連絡下さい。除外のお申し出により不利益を被ることは一切ありません。

問い合わせ先：

藤田保健衛生大学病院 放射線部

担当者：井上聡

愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1-98

e-mail:inosnher@fujita-hu.ac.jp